

2026/5/11

報道関係 各位

【研究発表】

転移性大腸がんの初回治療： 抗がん剤を「段階的に追加」しても生存期間は同等 ～ 高齢患者で重要な「治療効果」と「生活機能・生活の質」の両立に新たな根拠 ～

【概要】

川崎医科大学 先端腫瘍医学教室 永坂 岳司教授を中心とする研究グループは、転移性大腸がんに対する初回治療において、オキサリプラチンを病勢進行時に追加する「段階的治療」が、初回から併用する治療と比べて、全生存期間で同等である一方、治療初期の身体機能低下や感覚性神経障害が少ないことを明らかにしました。本研究は、国内 81 施設が参加した無作為化第 III 相 C-cubed 試験の長期追跡・追加解析です。高齢患者や脆弱な患者で重要となる「生存期間」と「生活機能・生活の質」の両立を考えるうえで、治療強度を調整する根拠となる成果です。本研究成果は、Nature Portfolio の Communications Medicine に受理され、2026 年 5 月 8 日付で掲載されました。

【ポイント】

- ・国内 81 施設が参加した無作為化第 III 相 C-cubed 試験の長期追跡解析です。
- ・311 人を無作為化し、300 人を全生存期間の解析対象としました。
- ・全生存期間はほぼ同等でした(27.2 か月 vs 27.4 か月、HR 1.00、95% CI 0.76-1.33、 $p=0.98$)。
- ・段階的治療では、治療初期の身体機能低下や感覚性神経障害が少ないことが示されました。
- ・高齢患者や脆弱な患者における治療の個別化を後押しする結果です。

【研究の背景】

転移性大腸がんでは複数の抗がん剤を組み合わせる治療が一般的です。一方、オキサリプラチンはしびれなどの末梢神経障害を起こしやすく、特に高齢患者では歩行や家事、外出などの日常生活への影響が課題になります。高齢者医療では、治療効果だけでなく、生活機能を保ちながら治療を続けられるかが重要です。しかし、副作用の少ない治療から開始し、必要時に薬剤を追加する戦略の長期的な妥当性を示すエビデンスは限られていました。

【研究内容】

本研究では、未治療の転移性大腸がん患者を対象に、フツ化ピリミジン+ベバシズマブで

治療を開始し、病勢進行時にオキサリプラチンを追加する「段階的治療」と、初回からフツ化ピリミジン+オキサリプラチン+ベバシズマブを行う「upfront 治療」を比較しました。今回の解析は、既報の主要評価項目に続く、長期全生存期間、年齢層別解析、ならびに患者報告アウトカム(QOL)解析です。

【主な結果と意義】

全生存期間に統計学的な差は認められませんでした。一方、患者報告アウトカムでは、段階的治療群で治療初期の身体機能低下が小さく、感覚性末梢神経障害も少ないことが示されました。これらの結果は、「最初から最大強度の治療」だけでなく、年齢、体力、脆弱性、生活機能、生活の質、本人の希望を踏まえて、治療を段階的に組み立てる選択肢が有効である可能性を示しています。特に高齢患者では、治療を続けながら生活機能を保つことが重要であり、本成果は高齢がん患者の個別化治療に資するものです。

【研究体制・支援】

本研究は、中四国がん臨床研究支援機構(JSWOG)が実施した無作為化第III相C-cubed試験の長期追跡解析です。今回の更新全生存期間の追跡および追加解析は、川崎医科大学先端腫瘍医学教室の研究資金により実施しました。

【研究者コメント】

がん治療では、最初から最大限強い治療を行うことだけが最善とは限りません。特に高齢の患者さんでは、生存期間だけでなく、しびれなどの副作用を抑え、生活機能を保ちながら治療を続けられるかが重要です。今回の結果は、患者さんの年齢・体力・生活の質・希望に応じて、治療を段階的に組み立てる選択を後押しするものです。

【論文情報】

論文名 Sequential versus upfront oxaliplatin-based therapy in metastatic colorectal cancer: long term outcomes of a randomized phase 3 trial

掲載誌 Communications Medicine (Nature Portfolio)

著者名 Makoto Okawaki[#], Mototsugu Shimokawa, Ryo Inada, Hitoshi Ojima, Hiroaki Tanioka, Shingo Noura, Yoshinori Munemoto, Keiichiro Ishibashi, Yoshiaki Shindo, Madoka Hamada, Masasumi Okajima, Yoshiyuki Yamaguchi, Takeshi Yamada, Yasuhiro Shimada & Takeshi Nagasaka^{*}
([#]は筆頭著者、^{*}は責任著者)

DOI <https://doi.org/10.1038/s43856-026-01633-3>

<問合せ先> 広報について
川崎医科大学 庶務課
課長 大森 義治(おおもり よしはる)
Tel:086-462-1111(代)

<問合せ先> 研究について
川崎医科大学 先端腫瘍医学教室
教授 永坂 岳司(ながさか たけし)
E-mail: takeshin@med.kawasaki-m.ac.jp
Tel:086-462-1111(代)